# ダブルホーム制による、いきいき学生支援

平成19年度文部科学省事業
「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

可能性のふたをあける

新潟大学

# ダブルホームとは？

What is "Double home"?

## 〈ダブルホーム〉は新潟大学独自の新しい取り組みです

新潟大学では、学生がさまざまな場面で困難な場面に直面しても適切に対処できるように、「ダブルホーム制による、いきいき学生支援」の活動に取り組んでいます。

第一のホームは、学生が入学し、卒業するまでの「学び」を支援する学部・学科です。しかし、多様な学問分野・領域を有する総合大学であるにもかかわらず、これまで学部・学科を横断して幅広く学生と教職員がつながりをもつような場はありませんでした。そこで、文系、理系、医歯系の学生が専門の壁を取り払って自由に参加できる第二のホームを設けました。

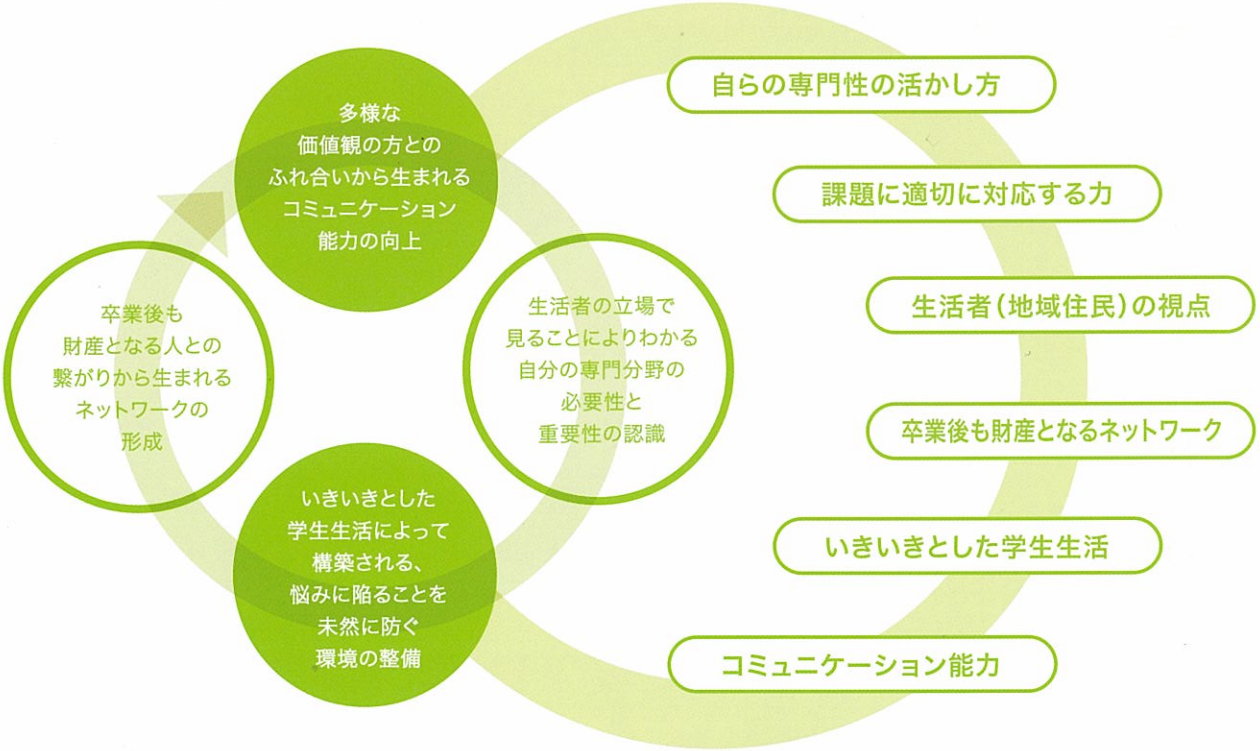
第二のホームでは、本学の教員が地域と連携して取り組んでいるプロジェクトに参加します。ホームではメンバーと話し合いながら多くの体験をすることによって、心を鍛え、自らのライフキャリアに生かすことを目的としています。

このような活動を通して学生と教職員が一体となり、学生支援から地域活動へ、さらには新たな教育へと発展することになれば、新潟大学がもつ総合大学として多面的な機能が活かされることになります。

## 〈第二のホーム〉のねらい

これまでにダブルホームでは様々なプロジェクトに参加して活動を行ってきました。リユースのプロジェクトに参加したホームは資源の有効活用について考えるとともに、実際にリユース市の運営の手伝いをし、リユースに関わる問題を体感しました。新潟県阿賀町の調査に参加するホームは、医療や経済など生活に関わる問題を聞き取り調査するとともに、優れた自然や文化など地域の埋もれた資源を調べています。調査は地元の人々とともに行い、結果は地元のみならず地域外に向けて発信する予定です。

このように第二のホームでは、学部を超えた新しい仲間との交流にとどまらず、様々な人々や地域との交流を深める場を提供します。



## 新潟大学では全学を挙げて この取り組みを支援しています

新潟大学副学長・全学教育機構副機構長
**紙谷　智彦**

第二のホームでは、学部・学科・学年の異なった学生たちが地域の課題を理解するために活動し、自らの専門性も背景にして積極的に地域に関わることによって、多くの経験が自らのライフキャリアに活かされることを期待しています。多くの学生・教職員が第二のホームに参加し、積極的に活動を展開して欲しいと願っています。このような活動こそが第二のホームが目指す学生支援の本質といえます。総合大学の特質を活かした取り組みを進めていきたいと思います。

### 第二のホーム参加学生の声

新潟大学
**Pホーム(Niere)**

Pホームでは、「大学の知に向かう」というテーマの他にもう一つのプロジェクトを自分たちで企画しました。医学部の山本先生の腎臓に関するプロジェクトに関わるうちに、地域医療についても関心をもつようになりました。そこで、新潟県にある離島のひとつである「粟島」について調べ、実際に活動を行いました。島には診療所しかなく、しかも医者がいません。看護師だけで、380人の島民の医療を支えています。移動手段が船しかなく、急な場合の対処が大変です。粟島は、若い人が少なく、高齢者の割合が高いところです。医療の問題だけでなく、地域の活性化についていろいろ考えさせられる活動となり、現在もホームの中で話し合っています。

新潟大学
**Iホーム(あい)**

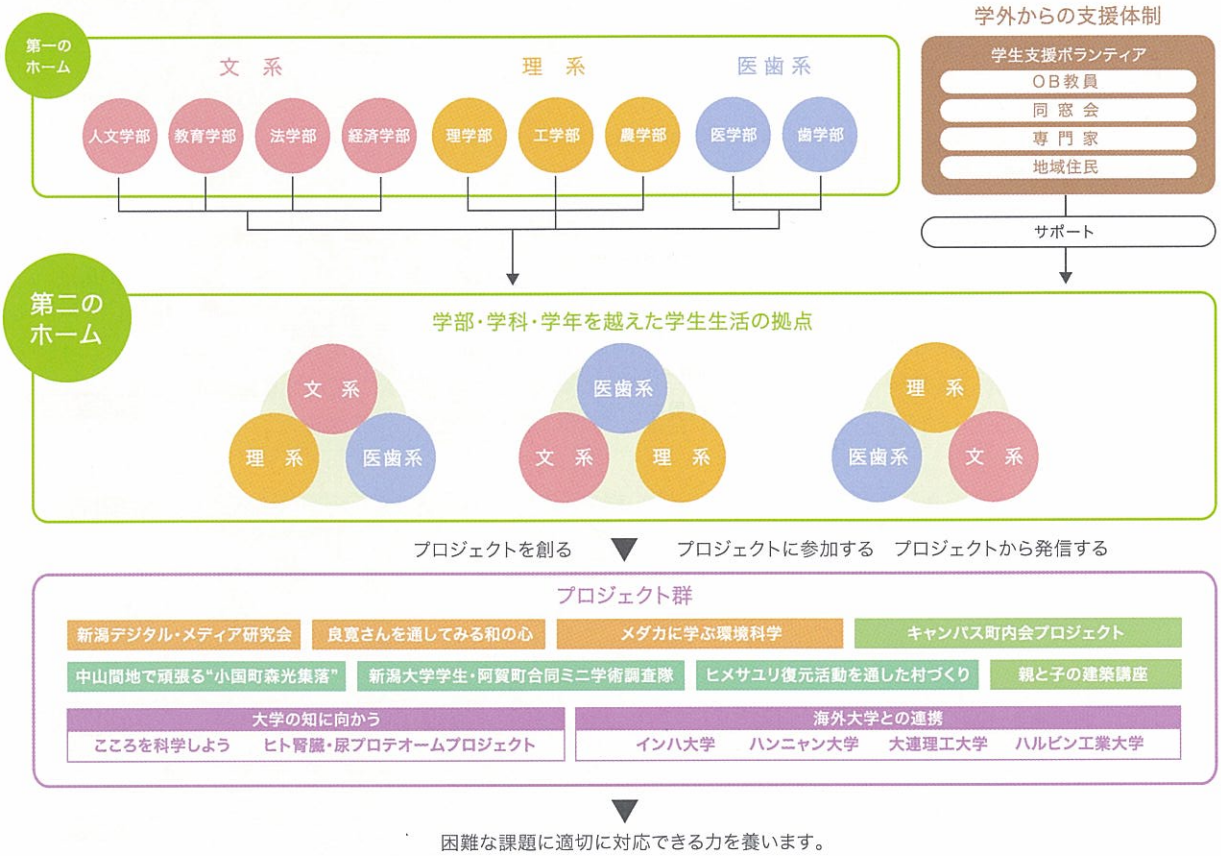
私たちの第二のホーム「あい」は長岡市栃尾表町の雁木プロジェクトに参加しました。地域の方とのお話を通して、実際に雁木のデザインコンペティションに参加することになりました。施主さんの希望をお聞きして、私たちは「自然と共に生きる」ことを雁木に表現しました。初めて雁木を見て感じたことは、人が自然と共生するために作り出したものであるということです。

雁木は豪雪とうまく付き合っていくためにできたものです。この地域の歴史に見られる自然との共生を表現できる建築物、そんな雁木を作ろうと考えデザインをし、模型を作製し、提案しました。

# 新潟大学のダブルホーム制による学生支援

## 第二のホーム構成

この取り組みは、学生が日常を過ごす拠点（ホーム）を、学部・学科・学年の枠を越えて形成するものです。研究室やゼミ等、学部・学科の専門教育を行う従来の拠点である第一のホームに対して、新しい第二のホームは、文系・理系・医歯系の学生が集まる総合大学の特性を活かし、学部・学科・学年を越えて構成します。




困難な課題に適切に対応できる力を養います。

## 平成20年度 第二のホーム実施プロジェクト例

### ヒメサユリ復元活動を通した村づくりプロジェクト
（新発田市板山）

板山地区住民が行っている「ヒメサユリ復元活動による村づくり」に参加し、「春の夢まつり」、大人と子供たちの「ジャガイモ掘り体験」、「田植え・稲刈り体験」や有機栽培を目指した農業などに参加し、地区住民と交流しながら村づくりをどのように進めていくのかをともに考えます。

### 新潟大学学生・阿賀町合同ミニ学術調査隊
（阿賀町）

学生が阿賀町の様々な集落に入り、阿賀町の人々との交流や時には聞き取りインタビューを実施することで、地域が抱える問題の調査や隠れた資源を掘り起こす活動をします。阿賀町役場との合同プロジェクトです。

# 運営体制

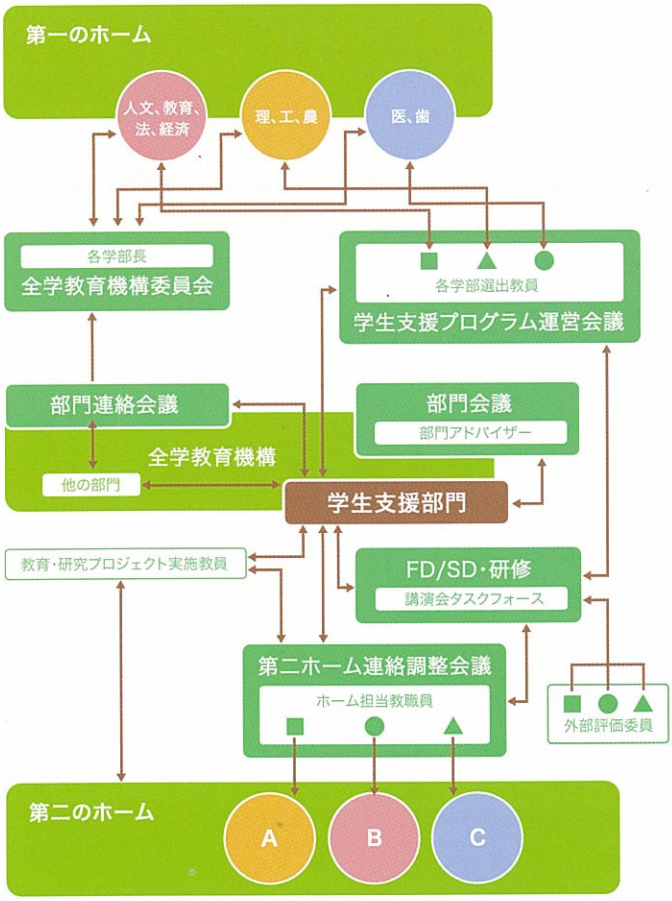
第二のホームの組織化と実施にあたり、学士教育課程のマネージメントを行う全学教育機構の中に、新たに「学生支援部門」を立ち上げました。

学生支援部門では、評価委員会と連携し、具体的な修正や新たな計画の実施など、ホーム運営の改善を行い、効果的で安定的なホーム運営を持続していきます。

また、学生と教員による、ホームの運営評価と活動の自己評価もあわせて行い、担当教員とフェロー（OB教員・同窓生）、学生とが本システムの改善策を検討し、提案・実施していきます。

協力教員・学部教員代表および学生支援担当教職員から構成される学生支援プログラム運営会議を開催します。学内外の関係者との協力・調整にあたり、担当教員代表を加えた第二ホーム連絡調整会議も開催していきます。

総合教育研究棟Ｂ４５４教室（Ｂ棟４階）に第二のホーム専用の事務室・談話スペースを設置し、専任の教員と事務職員を配置し、学務部学生支援課と連携しながら学生の活動を支援していきます。



［学生との相談風景］
総合教育研究棟　B454教室

［打ち合わせ風景］
総合教育研究棟　B452教室

［活動風景 1］
新潟県立自然科学館・親と子の建築講座参加

［活動風景 2］
長岡市小国町森光訪問・笹団子づくり

「ダブルホーム制による、いきいき学生支援」プログラムは、文部科学省が認定する

平成19年度

# 「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に選定されました。

●「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」とは

学生の人間力を高め、人間性豊かな社会人を育成するために、学生支援機能の充実を図ることを目標として、学生の視点に立った独自の発想や工夫で取り組む大学などに対して平成19年度から文部科学省が公募を始めたプログラムです。

## 本プログラムの選定理由

新潟大学においては、大学の目的等に基づき学生支援の目標を定め、学生支援の取り組みを長年にわたり、具体的かつ組織的に実施しており、その結果は、学長の学生との対話集会を高頻度に実施するなど、学生に大学生活を充実させる効果において大きな成果を上げていると言えます。

また、今回申請のあった「ダブルホーム制による、いきいき学生支援」の取り組みは、総合大学の特徴を生かした異分野の学生間の連携による地域連携活動により、学生が悩みに陥ることを未然に防ぐ優れた予防的環境の醸成に効果が期待できるものになっており、また、それぞれの支援のプロセスが明確であり、他に見られない工夫ある取り組みであると言えます。

特に、生活者の視点に立った学生支援プログラムの取り組みにあっては、学生が潜在的に抱えている自分の専門に対する漠とした不安・意味づけに明確な回答を与えるものであり、他の大学（特に総合大学）等の参考となる優れた取り組みであると言えます。

access

五十嵐キャンパス

①事務局
②法学部・経済学部
③教育学部
④理学部
⑤工学部
⑥農学部
⑦総合教育研究棟
・人文学部・学務部
・国際センター・大学教育開発研究センター
⑧大学院自然科学研究科
⑨大学院現代社会文化研究科
⑩総合研究棟

新潟大学　全学教育機構　学生支援部門

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL/025-262-7927　FAX/025-262-7987
E-mail:home@ge.niigata-u.ac.jp　URL:http://www.ge.niigata-u.ac.jp/iie/gakuseiGP/